

単年度水道事業評価シート(令和元年度)

1 事業情報

目指すべき方向性	強靱	基本政策	2 安定・快適な水道水の供給	施 策	2-1 水道施設の更新	事 業	2-1-1 浄配水場施設の更新
----------	----	------	----------------	-----	-------------	-----	-----------------

2 事業評価の概要

視点	内容							
何のために【政策】	快適な生活のために、浄配水場や配水管の計画的・効率的な更新および適切な維持管理を行うとともに、非常時の被害を最小限にする管網の整備を推進し、様々な漏水対策を図り、常に安定した水圧で途切れることなく水道水を供給します。							
どんな問題を解決するか【事業目的】	・施設更新基本計画に基づき、浄配水場施設の更新工事を実施します。更新にあたっては、将来の水需要に応じた施設規模の適正化を図ります。							
どのような道筋で【目標】（単年度）	①上青木浄水場で実施設計委託を2件実施します。設計委託を実施し、運用に支障がない工程検討等で安全な工事の準備をします。 ②神根浄水場で基本設計を1件、実施設計委託を2件、工事を4件実施します。第1配水池耐震補強工事を実施し、災害に強い施設機能の向上を図ります。 ③石神配水場で工事を2件実施します。自家発電装置更新で停電時でも安定した配水を可能にします。 ④横曽根浄水場で老朽化した空調機の更新工事を実施し、省エネルギー化を図ります。 ⑤芝園配水場で老朽化した空調機の更新工事を実施し、省エネルギー化を図ります。 ⑥鳩ヶ谷浄水場でNo.6配水ポンプ補修工事を実施し、機能回復を図ります。							
期間	令和元年4月 ～ 令和2年3月							
いくらかけて【予算額・決算額】		予算額			決算額			執行率
	単位:千円	総事業費	収益的支出	資本的支出	総事業費	収益的支出	資本的支出	単位: %
	事業費計	745,294	91,509	653,785	643,689	103,635	540,054	86%
	工事費	672,555	21,175	651,380	593,740	56,830	536,910	88%
	原材料費	0			0			
	委託料	72,739	70,334	2,405	49,949	46,805	3,144	69%
	賃借料	0			0			
	その他	0			0			
	人件費	16,590	16,590		16,590	16,590		100%
どういう成果を達成するか【成果指標】	浄配水場の老朽化した施設・設備等の更新が最善な更新計画に反映できた状態。 施設設備機器更新工事設計を委託し、工法や経済性、運用方法を考慮した設計ができた状態。 施設・設備等の機能維持の為、補修等工事を行い施設や設備の性能回復ができた状態。 老朽化した施設や設備の更新を行い、安定した配水及び運転管理ができた状態。							

3 プロセス結果の検証

評点	視 点	内 容				
中間評価	上半期何をどのように執行したか【現状把握】	①実施設計委託2件の契約を締結し、請負業者との現場調査等を行った。 ②工事、委託全て契約を締結し、作業に向けて打合せ等を行った。 ③関係部局と連絡調整を行い、進捗状況を確認しながら工事を行った。 ④既存資料を収集し、図面、設計書の作成中である。 ⑤既存資料を収集し、図面、設計書の作成中である。 ⑥契約を締結し、作業に向けて打合せ等を行った。				
	下半期改善すべき点 は何か【改善目標】	①運用に支障がない工法や経済性を考慮した設計を行うために、関連業者との連絡を密にし完了させる。 ②関係部局と連絡調整を行い、工期内に安全に工事を完了させる。 ③関係部局と連絡調整を行い、工期内に安全に工事を完了させる。 ④工事を発注し、工期内に安全に完了する。 ⑤工事を発注し、工期内に安全に完了する。 ⑥関係部局と連絡調整を行い、工期内に安全に工事を完了させる。				
69点	どのくらい進んだか【進捗度】	執行(契約)事業費	726,127千円	事業進捗度	自己評価	B 予定通りの成果を上げた
		予算執行率	97%		評価者結果	B 予定通りの成果を上げた
終了時評価	どういふ成果を達成したか【達成状況】	①運用上の支障や工事工程等を検討し、実施設計を完了した。 ②工事1件を除き工期内に工事が完了し、設備の性能回復した。 ③工事が完了し、設備の性能が向上した。 ④⑤工事が完了し、省エネルギー化を図った。 ⑥工事が完了し、設備の性能が回復した。				
69点	次年度に解決すべき点 は何か【次年度解決策】	②完了していない工事については、引き続き安全に工事を完了させる。 ①②③④⑤⑥関係各課と情報を共有し、工期内に安全に完了させる。 ①②③④⑤⑥工事の検討にあたり、適正価格での執行とするため、見積もり単価については、より実勢価格になるよう精査し、設計に反映させる。				

単年度水道事業評価シート(令和元年度)

4 改善経過の点検と評価

視 点		項 目	評 点	5 常に 全員	4 概ね 多数	3 一部	2 あまり～ない	1 ほとんど～ない	中間	終了
人 員		意識	この事業による社会全体への貢献を職員は常に意識していますか？						4	4
		適材適数	業務の適正に応じた柔軟な偏りのない業務分担を行っていますか？						4	4
中間	16	成果	課の職員が事業の成果や目的を意識していますか？						4	4
終了	16	連携	この事業に必要な連携(局内・市長部局・委託業者等・県等)はできていますか？						4	4
手 段		手段	目的達成に必要な手段や方法は、既成概念に囚われず、新たな視点で検討していますか？						3	3
		可視化共有	目的達成に必要な手段や方法を、可視化し、情報共有していますか？						4	4
中間	14	方法	当初計画や予定よりも優れた代替方法を検討していますか？						3	3
終了	14	目的化	この事業は、上位目的達成の手段として有効であることが、組織で理解されていますか？						4	4
工 程		進め方	目的を達成する工程が、全体最適の視点から作られていますか？						4	4
		合目的性	水道利用者の視点に立ち、ニーズや利便性を反映した改善をしていますか？						3	3
中間	14	学習	課題・問題点が発生したら、その都度、プロセス全体を検証し改善していますか？						3	3
終了	14	当事者意識	職員が主体的に行動していますか？						4	4
予 算		利益	上下水道局の利益ばかりでなく、社会全体の利益まで意識していますか						3	3
		効果効率	より低いコストで成果をあげる工夫を施し予定以上の費用対効果を出していますか						4	4
中間	13	コスト検証	当初計画や予定よりも優れた代替方法による予算の効率的活用が常に検討されていますか						3	3
終了	13	成果	成果指標を上まわっていますか						3	3
期 間		タイムマネジメント	工程を構造化したタイムスケジュールを可視化・共有し、停滞時間削減に取り組んでいますか？						3	3
		タイムコスト	時間＝コストを意識し、ムリ・ムラ・ムダの検証を行っていますか？						3	3
中間	12	期間の設定	業務集中を避け、局全体の事業執行を最適化するように期間を設定していますか？						3	3
終了	12	成果達成	短期間で成果を達成するよう、期間を検討し、進捗を確認、期間修正を行っていますか？						3	3

5 事後評価

水道事業ガイドライン業務指標(PI)・独自指標					R1	R2	R3	
指標名	【PI B602】浄水施設の耐震化率	単位	%	目標値	32.2	32.2	67.6	
算出式・根拠	(耐震対策の施された浄水施設能力/全浄水施設能力)×100				実績値	32.2		
指標名	【PI B603】ポンプ所の耐震化率	単位	%	目標値	72.8	72.8	72.8	
算出式・根拠	(耐震対策の施されたポンプ所能力/耐震化対象ポンプ所能力)×100				実績値	72.8		
指標名	【PI B604】配水池の耐震化率	単位	%	目標値	54.6	57.2	60.0	
算出式・根拠	(耐震対策の施された配水池有効容量/配水池等有効容量)×100				実績値	57.2		
指標名		単位		目標値				
算出式・根拠					実績値			
指標名		単位		目標値				
算出式・根拠					実績値			
指標名		単位		目標値				
算出式・根拠					実績値			

視点	自己評価	評価根拠の説明(自己評価の根拠を具体的に記述します。不達成の場合は、原因、改善策を明示します。)		評価者結果
		A＝予定以上の成果を上げた / B＝予定通りの成果を上げた / C＝成果は出ているが予定に達していない D＝結果は出ているが成果は出ていない / E＝不十分な結果にとどまる、または結果が出ていない		
達成度	B	年度内に完了予定の工事は概ね竣工した。(神根浄水場場内配管布設工事のみ未竣工)		B
効率性	B	各事業完了及び完成により、施設の性能が回復が向上し、効率を高めることができた。 機器の状態を維持でき、効率を高めることができた。		B
有効性	B	石神配水場自家発電設備更新工事の完成により、設備の性能が向上し、更に耐久性が高まった。 神根浄水場第1配水池耐震補強工事の完成により、災害に強い施設機能が向上し、更に耐久性が高まった。		B
説明責任	B	各工事とも、工事施工前に請負業者及び運転・点検委託業者と打ち合わせを十分に行った。 また、工事現場近隣住民へは、工事のお知らせを配布し、現場には工事案内看板を掲示した。		B
組織学習	B	関係各課と情報交換し、得られた情報については課内で情報共有を行うなどして、組織能力の向上を図った。		B
総合評価	B	施設・整備の老朽化による更新を計画的に進めることにより、予防保全ができ、機能を維持できるようにした。 経験した工事の知識の技術継承を行った。	次年度方針	B
			現状維持で継続	